

主催：先導物質化学研究所

共催：統合物質創製化学推進事業（北大-名大-京大-九大）

トリフルオロメチル化反応の開発

柴田 哲男 教授

名古屋工業大学ながれ領域 / 大学院工学研究科
九州大学先導物質化学研究所非常勤講師

日時：2011年12月2日（金）午後3時30分より

会場：理学部化学第2講義室

（箱崎キャンパス理学部2号館3階2355室）

要旨： フッ素有機化合物は自然界にはほとんど存在しないにも関わらず、合成医薬品や農薬、液晶化合物などを取り上げた場合にはその数は極めて多い。しかしながらその入手法を考えた場合に、フッ素化合物の源を天然物に求めるには限度があるため、必然的に効率よく人工合成する手法の開発が強く望まれる。一方でフッ素原子が持つ特異な性質から、含フッ素化合物は通常の有機化合物とは異なる反応性を示す場合がしばしば見られ、合成に困難を生じる場合が多い。そこで標的化合物の合成後半において、化合物のねらった箇所直接的にフッ素原子や含フッ素官能基を導入することができれば、効率的で有用であると考えられる。本講義では、フッ素化合物の合成法の中でも、最近我々が精力的に行っている直接的トリフルオロメチル化反応の開発研究の進捗状況について解説する。

柴田先生は、新規フッ素化剤の開発や含フッ素有用化合物の合成研究の第一人者で、有機フッ素化学の分野で顕著な業績を数多く挙げておられます。

多数ご来聴くださいますよう案内申し上げます。

連絡先：九州大学先導物質化学研究所

稲永純二（電話 642-2733, inanaga@ms.ifoc.kyushu-u.ac.jp）

古野裕史（電話 642-2734, furuno@ms.ifoc.kyushu-u.ac.jp）

鬼束聡明（電話 642-4341, onitsuka@ms.ifoc.kyushu-u.ac.jp）